

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
教委総務課	竹内 茂議員	本会議	学校施設について	学校トイレのうち、便器洋式化工事は、気持ちの良いトイレとは言い難い改修工事になっている。小中学校のトイレこそ清潔で気持ちの良いトイレ環境をと考えるが見解を伺う。	より多くの学校で早期に児童・生徒が安心して学習に集中できる環境を整えるため、全面改修と一部改修を組み合わせて計画的にトイレ改修を実施し、環境改善を加速化してきた。今後は、「長野市学校施設長寿命化計画」に沿って、令和4年度から本格化する学校施設長寿命化の中で計画的に実施していく。
教委総務課	竹内 茂議員	本会議	学校施設について	学校体育館は、避難所にもなる施設であるが、多くのトイレはバリアフリー化も多目的トイレもない。体育館の長寿命化改修工事を待たずにトイレ改修する必要があると考えるが見解を伺う。	学校体育館を避難所として使用する場合には、小さな子供や高齢者、障害者など多様な方々が避難されることから、体育館のトイレのみのバリアフリー化や多目的トイレの設置に加えて、段差の解消やスロープ設置も含めた施設全体のバリアフリー化を念頭に適切な対応を図る必要があるものと考えている。
教委総務課	竹内 茂議員	本会議	学校施設について	コロナ禍で窓を開けて換気を行い、冷気が入り込み、決して快適な環境とは言えない。環境を改善するために、熱交換型の換気扇設置を提案するが見解を伺う。	熱交換型の換気扇の各学校普通教室への設置に関しては、ランニングコストも含め、膨大な費用と時間を要することが想定される。コロナ禍における学校での学習環境の改善は、施設の改修だけではなく、様々な角度から最適な方法の研究を重ねていく。
教委総務課	竹内 茂議員	本会議	学校施設について	学校施設の老朽化について、自らの母校として誇れる学校に整備してほしいと考える。市の教育委員会は学校を整備する責任がある。見解を伺う。	児童・生徒の安全安心を最優先とした施設修繕を行うとともに、「長野市学校施設長寿命化計画」に沿った、予防保全や長寿命化改修を適切な時期に実施することで健全な状態を保っていく。
学校教育課	西沢利一議員	本会議	(7)学校における新型コロナウイルス感染拡大防止のための分散登校等の対応について	<ul style="list-style-type: none"> 1月26日から3月4日まで分散登校等の措置が行われている。各校でどのように取り組んできたのか、また、効果はいかがであったのか伺う。 児童生徒の学びの保障のための工夫や保護者の負担軽減のための取組について伺う。 	<p>本市では、従来から地域の感染レベルに応じて、文科省の衛生管理マニュアルにのっとり、学習や活動を進めてきた。また、まん延防止等重点措置が適用された場合には、分散登校等の措置を講じていくことを、あらかじめ学校に伝えてきた。</p> <p>感染拡大により、1月26日から、学校規模に応じて「分散登校」、「分散教室」、「分散せずに特別日課」とし、児童生徒の接触機会を減らすなど、感染対策を最優先する中で学びを保障していくこととした。また、感染力が強いオミクロン株に対応するため、市保健所と相談の上、クラスに1人でも感染者が発生した場合は学級閉鎖とし、学校内での感染拡大を止めることに注力してきた。</p> <p>日常的な接触機会を減らすことに加え、国より厳しい学級閉鎖の判断基準とするなど、環境面と運用面を両立することで、集団的な感染を抑制していることが効果であると考えている。また、分散登校実施校では、感染者が発生しても学級全体を閉鎖することなく、一方のグループは学びを継続できることも一つの効果として捉えている。</p> <p>分散登校による、特に小学校低学年の家庭学習は、保護者の理解と協力により成り立つことから、分散登校開始前に、保護者が希望に応じて休暇を取りやすくする環境を整えていただくよう、商工観光部を通じて事業主へ協力を依頼した。また、自宅で過ごすことが難しい子どもたちには学校での居場所を確保し、その際に不足する教職員を補うため、「分散登校補助員」として大学生や地域の方を任用し支援している。</p> <p>まん延防止等重点措置の長期化による学習面の遅れなどについて、特に小学6年生や中学3年生は、予定していた学習内容を終えるよう配慮し、現在では、見通しをもつことができた。また、1人1台端末を活用し、学習面のみならず、心のケアについても、生活のリズム等個々の状況を把握するなど、きめ細やかな対応を継続している。</p>

報告1号

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	松木茂盛議員	本会議	(15)教育行政について	ア・本市では、不登校が増加傾向にあるとの事のでその実態と、いじめ・校内暴力の現状について伺う。 ・各種の対策で対応されていますが依然改善されないのはなぜか、今後の対処方針として、不登校の要因分析を詳細に行うと共に、いじめ・校内暴力も不登校の要因とされることから解決策として、官憲に依頼するシステム(分業で教職選任)として、幼い頃から他を思いやる心と秩序を守る徳育を身につけては如何か、所見を伺う。	令和2年度の年間30日以上欠席した不登校児童生徒数は、小学校201名、中学校392名であり、令和元年度と比べ、小・中学校合わせて14名減少したが、新型コロナウイルス感染症に伴う一斉臨時休業もあり、単純に比較できないものと考えている。 市教育委員会では、不登校等の状況を丁寧に把握すると共に、いじめが起因となる欠席の疑いがある場合には、直ちに指導主事が参画して対応する他、必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等、外部の専門家も参画した支援会議等を開き、一人一人の状況に合わせた支援を行っている。 続いて、いじめと暴力行為の現状では、いじめの認知件数は、令和2年度小学校1,058件、中学校252件であり、前年度と比べ、小・中学校合わせて109件増加となっており、暴力行為は、令和2年度小学校17件、中学校14件であり、前年度と比べ、小・中学校合わせて9件減少している。 学校の諸問題に対応するための警察との連携体制では、警察と全中学校との連絡会を年2回開催する他、警察官であるスクールサポーターが定期的に学校を訪問し、生徒指導案件等の相談をするとともに、地域の交番と緊密に連絡を取り合い、情報共有等を図っている。 また、法律的な側面からは、スクールロイヤーを任用し、複雑化、多様化する諸問題に対し、学校を支援する体制を整えている。 「思いやりの心」を育むことは、本市教育の柱である基本理念「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」の中核をなすものであり、子どもたちの健全な心の成長のためには、多様な人々と関わりをもちながら、他者を認め、互いを許し合うことが大切だと考えている。 自分を律する心や創造力を養うことも大切であり、「思いやりの心」と共に、道徳の授業や日常生活の中で、子どもたちに考える機会を設け、今後もこれらの心を育むことで「深く豊かな人間性の実現」につなげていく。
学校教育課	松木茂盛議員	本会議	(15)教育行政について	イ 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果である「小学生は下降気味、中学生は全国平均並みに向上しつつある」ことに関する要因分析と、今後に向けた更なる目標と対策についての考えを伺う。	本市では、調査結果を教科ごと、領域ごと詳細に分析し、その傾向を把握した上で、指導主事が各校への授業改善につなげている。例えば、小学生の国語については、自分の考えを目的や場面、相手に応じて、書き表す力がやや不足しているため、国語の授業だけでなく様々な教科の中で、根拠を明確にして、自分の考えを論理的にまとめる学習に力を入れるなど、一つ一つの分析結果を指導へ生かしていく。 中学生の学力向上についての要因は、各校において自ら計画し学ぶ時間を設けたことや、学年担任制等の柔軟な校内体制をつくるなどして、個に応じたきめ細やかな指導がなされたためではないかと分析している。 第三期しなごプランの重点項目である「自学自習の資質能力の伸張」の評価指標として位置付ける「学習意欲」や「自己肯定感」の項目を分析したところ、これらが高いほど正答率も伸びているという相関関係が見られた。これらのことから、子ども自身が意欲をもって「自学自習の資質能力」をさらに伸張することが、学力向上につながる重要な点であり、目標としているところである。 今後、ICTの効果的な活用を一層進めるとともに、全国学力・学習状況調査等の結果分析をふまえて、授業改善に力を入れるよう指導していく。
学校教育課	松木茂盛議員	本会議	(15)教育行政について	市内小中学校の過疎化対策では、生徒の減少から信更・七二会中学校で閉校とのことだが、市内中山間地にある他の小中学校も減少傾向にあり、早急な対応が迫られている環境にある。 市教育委員会の方針を伺う。	「長野市活力ある学校づくり検討委員会」から示された「答申」は、本市の「学校の在り方」のビジョンでもあるので、この考え方に沿い、子どもたちにとって望ましい教育環境を整えることが、教育委員会の使命であると考えている。 これまでも、「答申」にある「多様な集団の中での学び」の大切さについて、保護者や地域の方と意見交換を重ねてきた。 信更中学校と七二会中学校については、この考えの下に議論され、「閉校もやむなし」との考えに至ったものと受け止めている。 中山間地域の保護者からは、「新たな学びの場」への期待の声がある一方で、幼いころから慣れ親しんだ地域の学校から、新たな人間関係を築いていくことへの不安の声もある。 教育委員会では、不安や要望を丁寧に聞き、対話を積み重ねることで、「集団の中で育ち、学ぶこと」の大切さが理解されてきていると感じている。 中山間地域の児童・生徒の減少が進行していることは認識しているので、保護者や地域の方に「答申」の趣旨を丁寧に説明し、「子どもたちの学び」を第一に議論を重ね、合意形成を図りつつも、より一層、スピード感を意識しながら取り組んでいく。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	松井英雄議員	本会議	(4) 学校教育について	ア コロナ対応や学校訪問等を振り返り、教育長が感じた教育課題について、感想と今後の進め方や考えを伺う。	教育長に就任して1年が経とうとしている。この間、コロナ対応や学校訪問、校長先生方との対話等を通して、少子高齢化や高度情報化、生活や価値観の多様化など、社会の急速な変化の影響が、学校現場の課題として色濃く表れていることを肌で感じ、強く認識してきた。 学校が抱える複雑で多様な教育課題の解決を図り、「第三期しなのきプラン」で掲げる、全ての子どもたちの「自学自習の資質能力」の伸張を図っていくためには、改めて、様々な立場の方々の連携と協働が欠かせないものと考えている。 こうした考えから、第三次長野市教育振興基本計画では、キーワードを「協働」とした。取組の一例としては、不登校児童生徒の社会的自立に向けた学びの場を確保するための、学校以外の居場所づくりである。 今年度、市内の施設を複数訪問し、活動の様子や課題等をうかがってきた。関係機関や民間の教育施設・事業所等との連携を一層強化し、多様な子どもたちを誰一人取り残さないための体制づくりを、さらに進めていく。 また、1人1台端末を用いて意欲的に学ぶ子どもたちの様子を参観してきた。GIGAスクール構想については、子どもたちの学びの充実のため、さらなる環境整備を推進する必要があると感じている。通信環境の強化や教員用端末の配備等、ハード面の整備を早急に進めるとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、教職員研修の質的向上を図っていく。
	松井英雄議員	本会議	(4) 学校教育について	ア 本年度新設された学校支援官は、どのように教育課題に対して向き合っているのか伺う。	本年度新設した学校支援官については、これまでの学校管理職としての現場での経験を生かし、各校が抱える教育課題について校長先生方に指導助言を行っていただいている。 私の思いや考えを学校現場の実情に寄せて校長先生方に的確にお伝えいただくとともに、学校現場の声を私に届ける役割も担っていただいております。教育委員会と学校現場のつなぎ役として、引き続きご尽力いただきたいと考えている。
学校教育課	松井英雄議員	本会議	(4) 学校教育について	イ ・分散登校等の期間における、学校や家庭での端末の活用状況について伺う。 ・通信料や家庭における通信環境について、どのように対応したのか伺う。	分散登校等の期間中、各校では、1人1台端末を活用し、家庭学習では、オンラインで課題を配信し、動画による教材を視聴したり、調理している様子を動画で記録したりするなど、家庭でも端末を活用した課題に取り組んでいる。 また、分散登校等の延長に伴って、小学校6年生と中学校3年生を中心に、学校の実情に応じて、オンライン授業やオンライン学活、オンライン相談室の開設などを例示し、学びの保障や心のケア、規則正しい生活リズムなどへの配慮をするよう、各校にオンラインの積極的な活用を指示したところである。 分散登校等の措置は、非常時対応であるため、オンラインの利用に必要な通信環境については、各家庭に負担が生じないよう、希望する家庭にはルーター等を貸与し、学びを保障している。 感染対策を図りながら、子どもたちの学びを止めないよう努めていく。
学校教育課	松井英雄議員	本会議	(4) 学校教育について	ウ コロナ禍において、本年度は、2年ぶりに「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が実施された。本市児童生徒の体力の現状と本市の取組について伺う。	本市における同調査の体力合計点は、男子が、全国平均よりも高い水準を維持し、女子は、前回調査よりスコアが高く、全国平均程度となり、着実に向上してきた。また、質問紙調査による「運動好きの割合」は、男女とも全国の平均以上であり、「1週間の運動時間60分以上の割合」も、前回調査よりも上向いている。 このことは、平成30年度から体力向上に向け運動習慣の定着を図るため、校内に運動遊びの場を設置する「長野市版運動サーキット普及事業」等を実施してきた成果が表れているものと考えている。 一方、コロナ禍により、子どもたちの運動機会が失われ、体力の低下を招くのではないかと心配する声も寄せられている。 そこで、市教委では、令和3年度から「体力向上グッと！プラン」を新設した。これは、ヨガや体幹トレーニング等の専門講師が出前授業を行うもので、メニューとして、学校では、短時間で継続的に運動ができた、家庭では、一人でも運動ができた等が挙げられる。教師や子どもたちは、このノウハウを習得し、自発的に運動に親しむ習慣が図れるものと考えている。 次年度以降も、子どもたちが運動の楽しさや大切さを実感し、運動習慣の定着が図れるよう、「体力向上グッと！プラン」等の拡充を通じて、体力向上を目指していく。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	倉野立人議員	本会議	(1) 新型コロナウイルス感染症対策における新たなフェーズについて	学力低下・学力格差・学びの意欲低下・休校や分散登校に起因する不登校児の増加など、学校現場へのコロナの弊害が強く憂慮される。 かかる諸課題について、本市の現状と課題、取組状況について伺う。	本市では、コロナウイルスの感染拡大により、分散登校等の措置をとり、文科省の衛生管理マニュアルにのっとり、感染対策を最優先する中で子どもたちの学びを保障してきた。このような状況下における学習内容の定着等について、感染が不安で登校を見合わせる児童生徒や学級閉鎖等により登校できない児童生徒に対しては、1人1台端末を活用した授業配信など丁寧に対応してきた。 令和2年度は年度当初に一斉臨時休業が行われたものの、不足した授業時数を補充するための指導を重ねたことで、本年度当初に行った標準学力検査(NRT)では、学力の低下は見られなかった。 分散登校等の期間中、小学6年生や中学3年生については、予定した学習内容を終えられるよう配慮したため、年度内に終える見通しがたった。その他の学年については、年度当初に行うNRTの結果を分析し、学習の定着が不足している場合、無理なく補充・補完的な指導を実施していくよう各校に指導している。 コロナ禍での学校生活が長期化することにより、子どもたちが楽しみにしている行事が延期や中止になるなど、様々な場面で学校生活が抑制されている。さらに、分散登校等により、子どもたちから級友との時間を欲する声が寄せられたり、生活リズムが乱れてしまう子どももいたりするなど、心の健康や体力の低下も懸念されている。 そのため、スクールカウンセラーとの相談日の設定や、オンライン相談窓口の開設などを各校に求めるなど、児童生徒の心のケアを大事に考えている。また、体力面では、「体力向上グッと！プラン」等を推奨し、一人でも体力づくりができるよう配慮している。心や体の健康については、児童生徒一人一人に寄り添った指導や支援を丁寧に行うよう努めている。
学校教育課	小泉一真議員	本会議	(1) いじめ重大事態の再調査について	③これまで被害児童・保護者側への情報提供に問題はなかったか。また、元調査・再調査を含めた調査に係る記録は当該ガイドラインの趣旨を踏まえ、行政情報取扱規則に従って適切に保存されてきたか。 ・調査に必要であった記録はもれなく保存してきた適切であったということよいか。	保護者側への情報提供については、「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」に基づき、第三者委員会での調査の進捗状況を定期的に報告させていただいた。また、調査報告書やその基礎資料に係る情報提供については、ガイドラインと個人情報保護条例に照らし合わせ、不開示とする箇所を除いた部分を、できる限り提供してきた。 元調査・再調査を含めた調査に係る記録の保存について、ガイドラインでは、調査により把握した記録を少なくとも5年間保存することが望ましいとされているが、本市では、長野市行政情報取扱規程に基づき、個別の重大事態の調査に係る記録については、第44条の「審査請求の裁決及び訴訟に関する文書」に準じ、30年保存として取り扱っている。 調査にかかわる記録の保存については、30年の保存として取り扱っている。
学校教育課	小泉一真議員	本会議	(1) いじめ重大事態の再調査について	配布した資料は、平成27年2月18日の文章で、個人情報等抹消してあるが、宛名は被害児童保護者、発信者は当時被害児童が在籍した小学校の校長である。下線を付した部分が「本件について新しい事実が発覚した場合を除き、今後につきましては、事実経過につきこれ以上の報告書の提出はいたしかねます。」とある。被害児童保護者はこれを読んで今後一切この事案について学校は対応しないと受け取ったと主張しているが、当該文書施行は適切であったか。	配布いただいた文章については、情報公開請求を受けて教育委員会で開示したものではないと思われるので、内容についてはお答えすることはできない。 事前にお問い合わせをいただいた際に、文書の公開請求をされた際に不存在になるのかどうかという話があったので、文書公開をいただいた際には不存在にはならないと思う。としたことは事実である。ただ、実際には公文書の公開請求をしていただき、市としての正式な決定を受けなければ公式にはお答えできないものと考えている。
学校教育課	小泉一真議員	本会議	(1) いじめ重大事態の再調査について	④ガイドラインでは、「学校の設置者及び学校は調査中であることを理由に、保護者に対し説明を拒むようなことをあつてはならず進捗等の報告を行うとの趣旨から学校長による当該文書の施行は不適切であることは明白である。きちんとした見解を示せるような責任ある態度をもっていただきたい。法第30条では「重大事態が発生した旨を、当該地方公共団体の長に報告しなければならない」と規定されている。係る報告はいつのことか。報告を受けて当時の市長がとった行動はどのようなものか。市長は聞いただけなのか。	いじめ防止対策推進法では、地方公共団体の長等まで重大事態が発生した旨を報告する義務が定められている。 これに従い、平成29年6月8日、市長に本事案を重大事態として対応することを報告し、市長は重大事態として取り扱う旨を了承した。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	小泉一真議員	本会議	(1)いじめ重大事態の再調査について	⑤被害児童・保護者は旧第三者委員会答申の出される以前から、これに対する所見を示す意向を伝え、昨年5月10日、市長部局による再調査を訴える所見を作成したとのこと。実際に市長が所見を受け取ったのはいつか。	被害児童保護者から市長に所見が提出されたのは、令和3年8月20日である。
学校教育課	小泉一真議員	本会議	(1)いじめ重大事態の再調査について	保護者が市長あてに再調査を訴える機会を教育委員会へ求めたのが5月10日。実際に書面を施行できたのが8月20日である。迅速な解決を目指すべきいじめ重大事態の再調査を求める声が市長の元へ届くのに3か月以上放置されていた、これはどのような理由があつたのか。	令和3年5月10日から8月20日まで約3か月であるが、被害児童保護者が市長に直接所見を手渡したいと要望があつた。その意向に添うため日程調整をしていたところ、コロナの第5波も重なりこのような期間がかかった。
学校教育課	小泉一真議員	本会議	(1)いじめ重大事態の再調査について	現教育長選任には議会で賛否があつた。被害児童保護者が市長に所見を手渡したいのにこれほど時間を要するのは、教育長が当時の市長に対し遠慮が働いたということではないのか。教育長に選任される際、市の一般行政と教育行政の架け橋になることだったが、本事案ではその逆で、市長にアクセスしようとする被害児童の妨げになっている。現教育長は自身の選任人事に際し、かかるいじめ重大事態について前市長又は市の幹部から何らかの因果を含められたのか。	そのようなことは全くない。教育委員会の調査に被害児童保護者が納得いただけなくて、既に市長部局での調査にフェーズが移っているため、私から申し上げることは控えさせていただきたい。
学校教育課	西脇かおる議員	本会議	(3)基礎的な体力育成事業について	授業にヨガを取り入れる取組は全国的にも珍しく、本市が先進事例となっている。本事業の今年度の評価と今後の展望について伺う。	「体力向上グッと！プラン」については、児童生徒への多様な運動機会の提供や、日常的に運動に親しもうとする意欲の醸成を目的に、実施期間を令和3年度から3年間として、評価、検証していきたいと考えている。本年度は、「水泳」「ヨガ」「体幹トレーニング」「ダンス」をテーマに講師を派遣した。ヨガについては、児童へのアンケート調査の結果、ヨガを通じて心の安定と、運動の心地よさを実感できたとの感想が多く寄せられた。新たにヨガを取り入れたことにより、これまで以上に運動の楽しさに気づききっかけになった児童の姿が見られたことから、コロナ禍による抑制された学校生活が続く中、心の健康維持にもつながる取組となっている。水泳、体幹トレーニング、ダンスを実施した児童生徒へのアンケート調査結果では、運動の楽しさを実感するとともに、児童生徒の運動への意欲が感じられる感想が多く寄せられた。同プランでは、児童生徒が取り組みやすい運動を「短時間」「簡単」「心地よさ」をコンセプトに提供した。次年度は、実施校や実施回数を増やすなど、拡充したいと考えている。また、「健康教育」の一環として、「運動」「栄養」「休養」の大切さ等を学ぶ出前授業も新たに計画している。市教委では、これらの取組を通じて、より多くの児童生徒に多様な運動機会を提供し、運動やスポーツの大切さを伝えることで、生涯にわたって健康で活力ある生活を営む資質、能力の育成、体力向上の一層の充実を図っていきたいと考えている。
学校教育課	勝山秀夫議員	本会議	(4)小児への新型コロナウイルスワクチン接種について	市教委では、「防ごう！ワクチン差別」「新型コロナウイルスワクチン接種に関する差別・偏見、いじめ等の防止について」という資料を配布した。今回も同様の対応をするとともに、本人や保護者に小児の新型コロナウイルスワクチンに関する正しい情報提供が必要だと思うが、所見を伺う。	満12歳以上のワクチン接種が開始された際と同様に、今回も、啓発チラシを改めて配布し、ワクチン接種に係る差別や偏見、いじめなどの防止に努めてまいる。なお、児童や保護者へのワクチンに関する正しい情報提供については、長野市保健所より、接種券とともに厚生労働省作成の小児へのワクチン接種に関する説明書やリーフレットを個人宅へ送付するものと承知している。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	手塚秀樹議員	本会議	(1) 教育に対する市長の考えについて	(1)－① ・県の教育委員を6年近く務められた経験から、初等教育、中等教育の在り方を伺う。 ・また、市教育委員会の取組をどのように評価されていたのか伺う。	【初等・中等教育の在り方について】 初等・中等教育においては、子どもたちが自分自身のよさや可能性を最大限発揮したり、多様な他者と協働したりしながら、自分の人生を自分らしく切り拓いていくための資質・能力を育むことが何より肝要と考えている。これらことから、これからの初等・中等教育では、与えられた正解を効率よく覚えて再現できる力を培う学びから、社会的自立に向けて、子どもたち自らが、発達段階やその子の個性に応じた問いをもち、自ら解決に向けて学ぶ、いわゆる「探究学習」の充実を、一層推進していく必要があるものと考えている。 【県教育委員当時の本市教育委員会の取組の受け止めについて】 子どもたちの「生きる力」を育むために、平成27年度に3期9か年にわたる「しなのきプラン」を策定し、知・徳・体の観点から多様な取組を推進される中で、策定当時、全国調査において課題が見られた本市児童生徒の学力や体力が、全国の平均を上回るまでに向上してきた点は、大変な成果であると感じていた。また、一校一國運動のレガシーを継承した国際理解教育の推進や、不登校やいじめ問題等、個別の子どもが抱える諸課題の解決に向けた指導主事による「さっと学援隊」の編制、医療的なケアを必要とする児童生徒への支援等については、他の自治体に先駆けて推進されているものと受け止めていた。 現在推進されている「第三期しなのきプラン」の中核である「自学自習の資質能力」の伸張とは、私の考える今後の教育の在り方と合致しているので、第三次教育振興基本計画のもと、引き続き各取組の着実な推進を期待するとともに、市長部局として必要な支援をしていく。
学校教育課	手塚秀樹議員	本会議	(1) 教育に対する市長の考えについて	(1)－② 県教育委員の立場から、高校の再編・整備をどのように感じられ、小・中学校の統廃合についてどのような考えをお持ちか伺う。	・高校の再編・整備については、少子化に対応するための単なる学校の再編や統廃合の計画ではなく、魅力ある学びのあり方や一人一人の生徒に応える多様な学びのための高校づくりの計画であると認識している。 この再編・整備により、すべての高校生が自らの夢に挑戦できる学びが実現されることを望んでいる。 ・小・中学校の統廃合については、学校は、子どもたちが、将来、社会の担い手として自立していくために、多くの人と接し、様々な考えに触れ、豊かな人間性を培う場所であり、こうした教育環境を整えることが重要であると考えている。 本市の学校の在り方のビジョンでもある「答申」にも、「多様な集団での学び」、「発達段階に応じた連続性のある学び」の大切さについてまとめられている。 今後も、「スチューデント・ファースト」の視点で、保護者や地域の方に「答申」の趣旨をご理解いただき、議論を重ね、合意形成を図りながら、子どもたちにとって望ましい教育環境を整えていく。
学校教育課	手塚秀樹議員	本会議	(1) 教育に対する市長の考えについて ③世界各地を転戦した経験から、子どもたちに身につけてほしいスキル、発達段階に応じた多様な運動機会の提供と子どもの体力向上	(1)－③ ・ノルディック競技の選手として活躍し、世界各地を転戦してきた経験から、市長が子どもたちに身につけて欲しいスキルとはどのようなものか伺う。 ・発達段階に応じた多様な運動機会の提供と子どもの体力向上について伺う。	【子どもたちに身につけて欲しいスキルについて】 スキー選手として、数多くの国や地域を訪れ、多くの方と交流することを通じて、国際相互理解の大切さや、スポーツの普遍性、人々に夢と感動を与えるスポーツの素晴らしさを知った。また、選手として競技に打ち込んでいた頃、新たなジャンプや滑走方法に、チャレンジするのか、しないのか、その選択と戦う日々の中で、その葛藤を通じ、不安を抱えながらも目標に向かい、完全燃焼することの大切さを学んだ。 これらの経験から、子どもたちには、国際感覚を養い、感じたことや、想いを主体的に表現することなど、コミュニケーション力を高め、他者の多様な考えに触れる中で、自分と対話をしながら諦めずやり遂げること、すなわち、「自分と向き合う力」を育てて欲しいと願っている。 【子どもの体力の向上について】 現代の子どもたちは、社会環境や生活様式の変化から、運動の機会が減少しているのではないかと感じている。子どもの体力の向上には、幼少期から青少年期において、運動の楽しさや、心地よさを実感することで、運動習慣を確立していくことが大切だと考えている。 そのため、「体力向上グッと！プラン」などの事業を推進する中で、発達段階に応じた自発的で多様な運動遊びや運動を生活の中に取り入れ、生涯にわたり健康で活力ある生活を営むための資質、能力の育成を図っていくことが肝要であると考えている。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	手塚秀樹議員	本会議	(7) いじめ問題について	長野市には、小・中・高と多くの教育機関があり、人権教育などを通じた、いじめの未然防止やいじめ問題の対応に真剣に取り組んでこられたと認識している。これまでの市教育委員会の多くの経験が、今後学校現場で活かされていくものと期待をしているが、教育委員会のいじめ問題に対する考え方、対応について伺う。	いじめ問題については、「どの子どもにも、どの学校においても起こりえるもの」との認識のもと、すべての学校、教職員が人権感覚を研ぎ澄ませ、子どもの気持ちやその背景に寄り添いながら切実に受け止め、解決に向けて取り組むべき重要な課題であるととらえている。 文部科学省の「子どもを守り育てる体制づくりのための有識者会議」においても、子どもの集団でいじめが起きやすい要因のひとつに、異質なものを排除して 集団の結びつきを強めるようとするものが挙げられている。また、学校でのストレス、家庭での虐待や過剰な期待など、子どもが悩みや苦しみを抱えることで、いじめ行動に向かうケースもある。いじめには様々な要因がある。 市教育委員会では、「いじめ防止対策推進法」や「長野市いじめ防止等のための基本的な方針」等に沿った対応をするべく、本市における過去の重大事態や解決困難な事案等の教訓、これまでの様々な対応事例の積み重ねを活かし、校長会や教頭会、いじめ防止研修会等を通じて、いじめ事案に対しては、特に未然防止、早期発見、早期対応などを重点的に 取り組み、充実に図るよう努めている。
学校教育課	手塚秀樹議員	本会議	(9) 通学路の交通安全対策について【再質問】	ソフト面での対策を伺う。	各校においては、通学路の安全を確保するため、日々の見守り活動や交通安全教室、危険箇所に対する交通安全指導などを行っている。見守り活動は、警察官や交通安全指導員、地域見守りボランティア、保護者、教職員等が、通学路の各所で子どもたちを見守り、誘導や指示、巡回を実施している。交通安全教室は、自転車の乗り方などについて、全校で実施している。 また、子どもたちがタブレットで通学路の危険箇所の写真を撮って確認し合ったり、学校安全マップを作成したりするなど、子どもたちの交通安全意識を高める指導も行っている。 さらに、道路を横断する時には一時停止し、自分の目で安全を確かめて渡ることなど、教職員が現場で子どもたちに直接声がけすることや、保護者にも子どもが家を出る時には車に気を付けるよう一声かけていただくことなどを啓発している。 交通事故が発生しないように、日々自分の命は自分で守る安全指導を行い、また、児童が巻き込まれることを防ぐためにも大人からも協力を得て、子どもの命を守っていききたい。
学校教育課	佐藤久美子議員	本会議	(5) 文化芸術振興について	③文化庁は子どもたちの義務教育期間中、年一回は文化芸術鑑賞・体験ができる環境整備を目指している。そうした活動も積極的に取り組むことを求めるが、見解を伺う。	本市では、子どもたちが文化芸術に触れることを大切に考え、様々な機会を提供してきた。例年、芸術鑑賞教室を始め、アウトリーチ活動や劇団四季こころの劇場、セイジ・オザワ松本フェスティバルへの参加等、積極的に参加している。さらに、小学校合同音楽会や中学校連合音楽会を行い、子どもたちの文化芸術活動の成果を発表し合う機会を設けている。 文化庁が実施している「文化芸術による子供育成総合事業」にも、毎年希望校を募り積極的に参加し、今年度は、「芸術家の派遣事業」、「巡回公演事業」を実施した。また、コロナ禍で、様々な制約の中で過ごしている子どもたちの心をリフレッシュさせようと、今年2月に「オーケストラ鑑賞教室」を計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大により実現できなかった。 長引くコロナ禍において、子どもたちの心がさらに疲弊することが予想されるため、文化庁が行う事業の活用も含め、関係部局や関係機関と協力し、子どもたちに芸術鑑賞・体験の機会を積極的に提供して豊かな心を育てていきたいと考えている。
学校教育課	小林史子議員	本会議	(1) 学校図書館について	① ・長野市立の小・中学校における「主体的・対話的で深い学び」の取組はどのように進められているか伺う。 ・また、取組を進めるにあたり、どのような課題があるか伺う。	市教委では、かねてより「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が進むよう、教育センター研修講座や学校訪問支援等を通じて、教職員の理解を深めるとともに、実践的な授業研修を通して指導助言を行ってきた。 課題としては、学びのプロセスの中で、知識を関連付けて理解したり、情報を精査して解決策を考えたり、思いや考えをもとに創造したりすることに向かう「学びを深める」という点から、一層、授業改善を進めていく必要があると考えている。また、8月に配備が完了した1人1台端末を、どのように有効活用していくかという点も今後の課題である。特に、児童生徒の「学びを深める」という視点から、さらに効果的な活用方法を研究し、授業の改善充実に生かしていく。 学校図書館については、読書、学習、情報の三つのセンター機能の充実に努め、「主体的・対話的で深い学び」の醸成につなげていく。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	小林史子議員	本会議	(1) 学校図書館について	② ・「主体的・対話的で深い学び」には、「調べ学習」が欠かせない。この学習を支えるには、司書教諭や学校司書、学級担任・教科担任の連携が重要になる。しかし、司書教諭は担任を持つなど多忙、学校司書は勤務時間が短いという課題があるのではないかと。 ・また、調べ学習には百科事典、図鑑などが必要になるが、必要な資料を購入する予算は足りているか。	司書教諭は、司書教諭免許を有する教諭が、学校図書館の専門的職務を担う教員として、図書館経営や指導面を担当することとされ、学校司書は、学校図書館メディアの紹介、提供、情報サービス、整備、図書館を活用した学級活動の支援等を主な業務としている。 司書教諭は専任配置ではないことから、学校司書が学校図書館の業務を担うことも多く、勤務時間が不足しているとの声も寄せられている。今後、多くの教職員が関わって学校司書の業務を支援し、学校司書の負担軽減につながるよう指導していく。また、教職員定数の改善とともに、専任の司書教諭の配置について、国や県に働きかけていきたいと考えている。 なお、本市では、学校司書は、平成29年度に処遇改善を図り、市の雇用として市立全学校に配置しており、文科省の示す将来的な目標である1校1人配置をすでに実現している。 図書購入費については、学校種や学級数に応じて、必要な図書を購入できるよう、毎年相応の額の予算を配分している。また、廃棄などにより蔵書冊数が図書標準冊数に達していない学校には、予算を追加して配分している。特に調べ学習において活用頻度の高い百科事典は、セットが高額なため、学校間で貸し出しができるよう工夫している。また、来年度予算において、一部予算計上した。
学校教育課	小林史子議員	本会議	(1) 学校図書館について	③司書教諭や学校司書から、調べ学習を進める上での課題をヒアリングして、各学校の努力だけでは解消できないことについては教育委員会として対応していく必要があると考えるが、考えを伺う。	調べ学習を始めとした探究的な学習を進める上で、学校図書館の年間指導計画の作成や環境整備等が大切になる。それらを進めていく上では、校内の研究主任、教科主任等と司書教諭と学校司書との連携がとても大切になる。 今後、学校図書館の館長でもある学校長がリーダーシップをとり、学校図書館について、学校司書も交えて、研究主任を始めとする校内関係担当教員との意見交換をする場を設けるよう助言していく。また、学校だけでは解決できない課題等については、国の「第6次学校図書館図書整備等5か年計画」にある、学校図書館担当指導主事の配置等について研究していく。 なお、喫緊の課題については、年6回程度開催している学校司書の研修会の折に、司書教諭や学校司書の声に聴く機会を設け、課題解決に向けて共に考えている。
学校教育課	小林史子議員	本会議	(2) 学校図書館への新聞配備について	①長野市立の小・中・高校図書館における新聞配備の現状はどのようになっているか伺う。 ②2022年度の小・中学校への新聞配備の計画と予算はどのようになっているか伺う。	本市の学校図書館の新聞配備状況について、昨年9月時点では、児童生徒の閲覧用として、小学校が63%で平均1.2紙、中学校は92%で平均1.6紙、市立高校では4紙配備している。 各校では、限りある予算の中で、様々な工夫により学校図書館に児童生徒閲覧用の新聞を配備しているが、学校司書等の意見を聞く中で、一般紙だけでなく、子どもたちが親しみやすい子ども新聞の配備も望まれていたことから、令和4年度当初予算に、全校の図書館に子ども新聞を配備できる費用を計上したところである。
学校教育課	小林史子議員	本会議	(2) 学校図書館への新聞配備について	③各学校が目安とされる部数を配備できるよう予算措置する必要があると考えるが、所見を伺う。	本年1月末に文科省から示された「第6次学校図書館図書整備等5か年計画」で掲げている学校図書館への新聞配備数については、本市では、令和4年度は市立の全ての学校図書館に児童生徒閲覧用の新聞を配備し、どの子どもたちも新聞を手にとることができるよう予定している。その中で、各校における新聞の活用状況を検証したり、学校司書を含めた教職員の意見を参考にしたりしながら、同計画で目標として示されている複数紙配備について研究していく。 子どもたちが新聞を読み多くの情報を入手することで、社会に関心を持つことや、主体的・対話的で深い学びの一步となることを期待したいと考えている。
学校教育課	黒沢清一議員	本会議	(3) 小・中学校のコロナウイルス感染症対策について ②分散教室時の教室、スピーカー、人の確保	②整備されているWi-Fi環境では、クラスが同時に使えば間に合わない。適切なWi-Fi環境整備が必要である。コロナ禍において、分散しての教室にあたっては、教室の確保、スピーカーの確保、人の確保が必要と考えるが、見解を伺う。	学校内のICT環境整備については、これまでに校内LANや無線アクセスポイントの設置など、ネットワーク環境の整備を進めてきた。令和4年度は、インターネット環境の更なる強靱化を進めることにあわせ、校内環境も、さらに整備を行っていく。 分散教室実施校では、特別教室、多目的室、図書館など、音響を含め、各校の実情に合わせ教室を確保した。また、分散教室に係る人の確保については、大学生や地域の方を「分散登校補助員」として任用し、教員の不足分を補うとともに、子どもたちの見守り支援を行った。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	黒沢清一議員	本会議	(3) 小・中学校のコロナウイルス感染症対策について ③ICT担当教員の負担軽減のための教職員の増員	③ICT担当の先生の負担を減らすため必要な教職員を増員することを求めるが、見解を伺う。	まずは、全ての教員がICT機器を一つのツールとして効果的に活用できるよう、指導力の向上を目指している。校内研修の充実を図ることで、教員一人一人の理解が進むよう、サポート体制を整えるとともに、学校専用サイトに「長野市スクールICTサポートサイト」を開設し、教員がいつでもICT活用に係る情報を得られるようにしている。またICT支援員を活用し、教職員研修の実施や授業準備等を支援している。 さらに、学生によるICTサポーターを配置することに加え、外部講師としてICT企業ボランティアを拡充していくなど、サポート人材を活用して教職員の負担軽減に努めていく。
学校教育課	黒沢清一議員	本会議	(3) 小・中学校のコロナウイルス感染症対策について ④分散登校時の支援員の確保	④長野市教育委員会は、早い時期に分散登校に備えて、支援員の確保をしたが、必要な人数を各学校に配置できたのか、実際の状況はどうだったのか伺う。	分散登校補助員について昨年10月に学校に対して行った調査では、小学校29校から計112名の配置要望があったことから、市内の大学に募集したところ、学生74名の登録があった。不足分については、学校長が学校と関わりのある地域の方44名に依頼した結果、計118名を任用することができ、各校に配置した。 学校を居場所とする児童数が当初の予定より少なかったこともあり、概ね各校の希望どおり配置できたのではないかと考えている。
学校教育課	東方みゆき議員	本会議	(2) 森林資源の活用について	イ 山で学ぶ、山に親しむことについて、高原学校の取組状況を伺う。	小学校では、原則、5年生で高原学校を実施することとした上で、地域や学校の状況によっては、臨海体験学習を選択できるようになっている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため全校中止となり、今年度はリフレッシュ事業による自然体験学習という形で実施した。 今年度、山での自然体験学習を実施した学校は市内小学校54校中43校であった。各校では、宿泊から日帰りへの変更、目的地の変更等をしながらも、登山や飯ごう炊さん等、学校ごとの実態に応じた計画を立て、柔軟に取り組む中で、子どもたちにとって大きな学びとなったと報告を受けている。 また、地域や学校の状況から、海での自然体験学習を選択する学校もあったが、遠足や校外学習を始め、日常の教科学習の中でも山の存在はどの学校においても身近なものとなっている。
学校教育課	小林義直議員	本会議	(7) 放課後子ども総合プランの運営と、分散登校・分散教室時の支援策について	有償を基本に、広く地域活動の協力者を増やし、「支え合いのまちづくり」の構築につなげたい。教育の視点からのご所見を、教育長に伺う。	子どもたちの教育は、家庭・学校・地域がそれぞれの役割と責任を果たすとともに、相互に連携・協働してこそ効果が上がるものと考えている。こうした観点から、第三次長野市教育振興基本計画においては、キーワードを「協働」として掲げ、子どもたちの豊かな成長を支えていく教育環境を、市民の皆様と共に構築していきたいと考えている。 これまで、小・中学校では、コミュニティスクールを設置して地域の皆様に支援をいただいたり、大学との連携により学生チューターを派遣いただいたりするなど、学校の教育活動充実のために地域社会との協働を進めてきた。学校に関わっていただく皆様には、「子どもたちのために」という思いに加え、自身の生きがいや他者との交流、将来のための経験とするなど、それぞれの願いを実現する機会としてもお考えいただいております、学校との間に、WIN-WINの関係が構築されている。 近年は、民間企業からの支援も得られるようになってきており、市教委としては、学校の教育活動を中心に支援の輪を広げ、取組の充実を図る中で、地域社会と協働して子どもの教育を支える体制づくりを一層進めていく所存である。 一方で、子どもたちが抱える課題や保護者のニーズが多様化する中で、学校以外の子どもたちの多様な居場所や学びの場を確保していくことは、これからの社会全体の課題として受け止めている。場面によっては有償ボランティアの活用も含め、より多くの立場の皆様に参加いただき、社会全体で子どもたちの成長を支えるまちづくりが進むことを、私自身も強く願っている。
家庭・地域学びの課	箱山正一議員	本会議	古き良き門前の魅力を今昔比較でアーカイブすることについて	・図書館や公共施設などに市のまちの歴史を学べる場所はあるか。 ・子どもたちが長野市のまちの歴史をわかりやすく学び知る機会や書籍・冊子は用意されているか。 ・まちの古い写真をデータ化し、ネット上にアーカイブし常に更新される仕組みができるか。また、図書館などの常設企画としてつくりたいか。	・まちの歴史を学べる場所として市立図書館や公文書館、博物館があり、それぞれが所有している歴史的な資料の展示や貸出、閲覧を行っている。 ・子どもたちがまちの歴史を学ぶ機会は、「ながの検定ジュニア」の実施とともに過去問題に解説を加えたリーフレット「なるほど！ワクワクながの」を定期的に小学生に配布している。また、小学校では、史跡の写真等が掲載された副読本「わたしたちの郷土」を用い、市の歴史、暮らしなどの学習を行っている。そのほか、動画資料の「カイクんの歴史探訪」を学校専用サイト内で視聴でき、ホームページでも公開している。 ・ネット上にアーカイブするためには、市民からの写真・資料の提供が必要となるため、資料等の収集方法やデータ更新方法などを含め、関係する部局と連携しながら研究してまいりたい。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
家庭・地域 学びの課	小林史子議員	本会議	長野市立図書館基本計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市立図書館基本計画の次期計画策定を見合わせる理由は、 ・指標と数値目標は未達成のものがあるが、未達成の内容は、 ・計画期間終了時に計画期間の取組み状況や未達成の要因などを検証・分析し、公表すべきでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定を見合わせる理由は、災害や新型コロナウイルスのため社会の先行きを見通すことが難しい時期にあったことに加え、図書館管理のシステムのICT化や電子書籍化、また、GIGAスクール構想など様々な環境や条件の変化が激しかったこと。公共施設マネジメントで市立図書館の方向性が未確定であったことや、図書館に求められている役割が変化しており、様々な条件が変化している中で、方向性を見出すことが難しいと考えたものである。 ・11項目の評価指標のうち未達成の指標は、新型コロナウイルスの影響が少ない令和元年度では、「利用者登録率」など8項目である。 ・計画期間の取組み状況や未達成の要因については、令和3年度の集計結果をとりまとめたところで、計画期間の検証・分析を行い、長野市立図書館協議会に説明をした後、公表したいと考えている。
文化財課	鈴木洋一議員	本会議	長野市指定文化財旧作新学校本館改修整備について	<ol style="list-style-type: none"> (1) 元気づくり支援金交付に向けて地元とともに取り組めないか (2) 支援金をより有利な補助率で申請するために、公共的団体等として適用されるよう取り組むべきではないか (3) 新年度以降の具体的な改修計画はどのように策定しているか 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 地元の皆様とともに、この支援金の交付を目指してまいりたい。 (2) 建物内部を活用するためのソフト事業については、地元改修委員会が主体の事業にすることで、より有利な補助率の公共的団体として申請とすることも可能ではないかと考えている。 (3) 令和5年度以降、できるだけ早期の着手・事業完了を目指したい。
教委総務課	小泉一真議員	委員会	学校における石碑等の緊急点検に基づく対応について	通明小学校の転倒した石碑など、対策が必要な石碑の改修は、既決予算で対応するのか伺う。	対策が必要な石碑等については、現在、長野石材協同組合で現地確認し、改修方法や改修費用を検討中。補修等については、基本的には既決予算で対応するが、費用が多額となる場合は補正予算での対応も検討する。
教委総務課	小泉一真議員	委員会	学校以外の施設の石碑等の安全対策について	文化施設や公民館の敷地内にある石碑等の安全管理の方針はどうなっているのか伺う。	通明小学校での事故を受け、公民館、交流センターでも安全点検を実施。人が立ち入れないようにする、日常の安全点検により捕捉し、安全管理を行っていく。
教委総務課	若林祥議員	委員会	学校プールの整備方針について	現在、モデル校を決め、新水泳学習に取り組んでいるが、学校プール整備の今後の見通しについて伺う。	公共施設マネジメントの方針から基本的には、今後、プールの新設はしない。壊れてしまうものは、改修するか、新水泳学習に移行するか検討していく。ただし、民間プールの受入可能人数や移動方法等の課題があるため、学校毎、児童生徒数など規模に応じて対応を検討していく。
教委総務課	佐藤久美子議員	委員会	学校施設の維持・管理について	学校施設は老朽化が進み、まったなしの状況、学校の改修がどのように進められていくのか伺う。	文部科学省では、これまでの改築ではなく、長寿命化計画に基づき、適切な時期に改修することで、学校施設の維持を図っていくこととしている。今後、20年目と60年目の予防保全と40年目の長寿命化により、計画的に改修を進めていく。
教委総務課	佐藤久美子議員	委員会	学校施設の維持・管理について	学校施設は毎年手を入れないと老朽化が進む、地域住民等の力も借りながら、施設の点検、塗装、壊れかけた箇所の修繕などに手厚く取り組む必要があると考えるが見解を伺う。	児童生徒の安全を最優先に今後も予算の確保に努め、地域との連携についても研究しながら、施設の維持管理について最大限努力していく。
教委総務課	東方みゆき議員	委員会	学校施設の維持・管理について	各学校からの要望に対応する改修工事の実施は、優先順位をどのように決定しているのか伺う。	限られた予算の中で、学校とも相談し、優先度を評価しながら児童・生徒の安全面を最優先に施設改修に取り組んでいる。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
教委総務課	佐藤久美子議員	委員会	学校施設長寿命化について	令和4年度から公共施設等適正管理事業債に脱炭素化事業が追加される。充当率90%と非常に有利である。この起債なども活用した老朽化が進む学校施設の積極的な改修について、方針を伺う。	太陽光発電や照明のLED化等脱炭素化につながる改修も長寿命化の中で検討していくことを予定しており、それに見合った有利な財源を確保しながら進めていく。
教委総務課	小泉一真議員	委員会	学校施設長寿命化について	令和4年度に実施を予定して学校施設長寿命化の中で、バリアフリー化、ユニバーサルデザインの計画はあるのか伺う	学校施設の長寿命化改修は棟ごととなるが、各学校の状況に応じ、必要な校舎へのエレベータ設置や校舎内の水平移動を考慮したバリアフリー化を設計等の中で計画している。
教委総務課	青木敏明議員	委員会	学校施設長寿命化について	小中学校の体育館は、夏場非常に暑くなる。学校施設長寿命化の中で、状況の改善効果が見込める耐熱塗料などの採用について伺う	長寿命化のような大規模な改修でないと屋根の全面塗装などはできないので、技術部門とともに研究していく。
教委総務課	青木敏明議員	委員会	学校施設長寿命化について	学校の体育館等が避難所となる際、求められる機能については長寿命化改修の中で補うことができるようになるのか伺う	トイレ洋式化も求められる機能の一つであるが、現在は、児童生徒の環境改善を最優先に校舎のトイレ洋式化改修を進めている。体育館が避難所となった際には、洋式化された校舎のトイレを避難者にお使いいただくことも考えていく。
学校教育課	佐藤久美子議員	委員会	教員1人1台に不足する端末整備について	教員1人1台端末を購入する費用を補正予算に計上しているが、これまで教員1人に1台の配備は無かったのか。	教員用のパソコンは、これまで、普通教室に1台配備されていたが、今回は、国の補助金を活用し、校長、教頭、養護教諭等を除く全ての本務教員に1人1台の端末を整備するもの。なお、小学校においては、児童数の減少等による余剰機を教員用の端末に充てる予定である。
学校教育課	佐藤久美子議員	委員会	端末の持ち帰りについて	端末の持ち帰りの計画はどのようになっていくのか。	来年度の当初から、持ち帰りができる学校で順次始める予定。なお、来年度半ば頃に、通信環境が強化される見込みもあり、全校での持ち帰りを予定している。
学校教育課	佐藤久美子議員	委員会	教員1人1台に不足する端末整備について	校長や教頭は端末を配備しなくていいのか。	校長や教頭にも校務系の端末は配備されている。今回は、生徒と同じ端末を指導者用として教員に配備するもの。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	端末の持ち帰りについて	(端末の持ち帰りに係る)セーフティネットが構築されるのはいつになるのか。	来年度は、データセンターからインターネット(外側)の強化を予定している。学校からデータセンター(内側)の強化についても検討している。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	端末の持ち帰りについて	家庭の経済状況は様々である。通信環境がないことを理由に取り残される子どもはいないのか。	通信料の負担は、原則、家庭負担として検討しているが、併せて、低所得者層への支援策も検討している。9月から予定している端末の一斉持ち帰りに間に合うよう準備を進めていく。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	端末の持ち帰りについて	遠隔授業を実施する際に使用するカメラ等の機器を充実してほしいと考えるが、いかがか。	これまでのオンライン学活・授業等を検証しながら検討していく。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	端末の持ち帰りについて	カメラの量や性能が十分であるか、きちんと学校に調査してほしいと考えるが、いかがか。	今回はコロナ禍の対応であり、課題等はきちんと検証し、今後の授業後の持ち帰りについても、1人も取り残さないよう、しっかり取り組んでいく。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	小泉一真議員	委員会	端末の持ち帰りについて	これまでずっと続いているコロナ禍においては、(今回の対応は)もはや非常時とは言えない状況となっている。アンケート等により、しっかり調査してもらいたいが、いかがか。	必要に応じてアンケート等による調査を行っていききたい。
学校教育課	佐藤久美子議員	委員会	部活動指導員について	内容と部活動指導員のなり手について伺う。	今年度の7人を9人に増員する。予算としては、1人につき時給1,600円×300時間や通勤費等を計上している。今年度は予算上7人であったが、テニス部は兼務をかけ、実質8人配置した。なり手としては、教員OB、運動系では競技団体の方など。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	特別支援教育担任者会補助金の減額について	特別支援教育担任者会補助金について、減額の経緯といくら減額になったか。	特別支援教育担任者会補助金のこの会は特別支援の担任から組織している団体で、当該補助金については毎年10月から11月にかけて行われる「ふれあい展」が主な事業の内容。令和3年度からもんぜんふら座から長野県立美術館へ会場を変更した。これにより机のレンタル数を抑えられることとなったことから減額するもの。補助金は39,500円の減額。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	特別支援教育担任者会補助金の減額について	ふれあい展の会場がこれまで慣れた会場から変更になったということであるが、特別支援を要する児童生徒の負担となっていないか。	会場での展示作業は、教職員が行っているため、児童生徒の負担となっていない。会場が県立美術館となり評価は良い。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	端末持ち帰りに係るセーフティネットの構築について	端末の持ち帰りに係る必要な支援については、国の交付金等を当てにせず、必要な世帯にきちんと行き届くようにしてほしい。	【要望】
学校教育課	小林義直議員	委員会	部活動指導員等に係る関係者との連携について	部活動指導員等について、議会でも答弁いただいたが、こども未来部やスポーツ課としっかり連携しながら進めてほしいと考えるが、見解があれば伺う。	総合型地域スポーツクラブ等についても、関係課や地域と連携して進めていきたい。
学校教育課	青木敏明議員	委員会	スクールソーシャルワーカーの活動について	SSWについて、社会福祉士などの資格をもった人は何人いるのか、1075時に間時間が増えることでSSWは何人増えるのか。1校あたりどのくらいの頻度で相談を受け持つのか。	SSWの採用条件は社会福祉士としている。活動については個別のケースごとに家庭に入って行くことになる。新年度は当初に各校をまわり活用を周知する予定。時間の増加により市として2名新たに登録を増やす予定。また、SSWについては北信教育事務所のSSWが長野市のケースに携わっているケースもあるため、今後も県と連携して進めたい。
学校教育課	青木敏明議員	委員会	スクールソーシャルワーカーの活動について	子どもが精神科の受診が必要な場合にどのようにSSWはかかわるのか。どういう経過によってつないでいるのか。	SSWも精神科の先生とはつながっているため、場合によっては一緒に行くなどして、支援の必要な児童生徒とつなぐことをしている。
学校教育課	小林秀子議員	委員会	特別支援教育について	医療的ケア児は何人くらいが支援の対象となっているのか 昨年は58人であったが、人数が減ったということは対象の児童が減ったということか	医療的ケア児は23人を予定している。卒業や、特別支援学校へ転校することにより対象者が減ったということである。
学校教育課	東方みゆき議員	委員会	一校一國運動活動について	これまでの実績を伺う。 コロナ禍においても、インターネットの活用等により交流を充実させてほしい。(要望)	これまで、ほぼ固定化された8校程度が実施してきており、補助の上限額を活用している学校が多い。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	東方みゆき議員	委員会	日本語指導について	日本語指導について、来年の対象児童の概算の数と訪問する学校の数はどのくらいか。	令和3年の数字でお答えします。外国籍児童が146名でそのうち日本語指導が必要な方が52名、日本国籍で指導が必要な方は38名、学校については約30校に回っている。
学校教育課	佐藤久美子議員	委員会	スクールソーシャルワーカーの活動について	SSWの活動について、精神障害があつて相談をしようとする、は新規を受け入れる医療機関が少ない。つなげるその先について充分でないが教育委員会としてはどのように考えているか。	保健福祉部等とも連携をして、家族全体の解決に向けて取り組んでいる。
学校教育課	佐藤久美子議員	委員会	東日本台風災害対応の通学援助について	東日本台風災害対応の通学援助の対象者は何人か。また、いつまで継続されるのか。	予算編成時は7人で見込んでいたが、実際には3人の見込み。支援の期間は、住宅支援の期間と合わせている。
学校教育課	小林義直議員	委員会	飯綱高原における子どもたちの植樹活動について	飯綱高原は、今、転換期を迎えている。観光振興課と情報共有しながら、子どもたちが木や花を植える活動について研究してほしい。	飯綱高原はグリーンシーズンでの活用に力を入れており、「学ぶ」ことに関して観光振興課と連携していきたい。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	いじめ重大事態の再調査について	議場配布した資料について、当時の学校長の施行した文書として適切なのかについて公開請求をしていないため回答できないとあった、この対応は前例としないように要望する。	(要望)
学校教育課	小泉一真議員	委員会	いじめ重大事態の再調査について	被害児童保護者が昨年5月10日に所見を作成したが、市長に渡したのが8月20日であり、ゆっくりすぎるが、コロナがその理由と答弁したがそれでよいか。	令和3年5月9日付けの被害児童保護者からの要望書には、コロナについて配慮を求めた意向があった。また日程については特段急がないともあったことから、市教委としても新型コロナウイルス感染状況を注視して、慎重な対応をした。その後被害児童保護者と文書で6回の日程調整をし、8月20日に行った。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	いじめ重大事態の再調査について	当初市長に面会させない抵抗にあつたと被害児童保護者は言っているが、それは事実か。	当初「ガイドラインに基づいて」教育長が受けると考えていたが、要望が市長であつたので、教育長から市長へ替えた。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	いじめ重大事態の再調査について	8月20日に所見が出て、9月29日に引き継いだというのはすぐにはではない。1か月以上も放置してどうするつもりだったのか。	結果として9月29日に市長部局の決定があつたが、8月20日に所見を受けて、8月31日に庁内の関係部局担当者の会議を開いている。9月16日に関係部局長を集めた会議を開き、その中で市長部局で決定したものである。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	いじめ重大事態の再調査について	参議院議員の小西議員が、9月21日に調査の担当部署について教育委員会へ確認したところ、市長部局でなく教育委員会で担当している回答があつた。教育委員会で9月末までに被害児童保護者へ回答書を作っていたことは事実なのか。	やりとりは事実であるが、答えた内容は誤解を与える内容であつたことから、先方(小西議員)へもその旨回答してある。先程の回答のとおり8月20日に所見を受けて、他市の状況を調べる中で8月31日に庁内担当者会議を開き、教育委員会は関与できないことを説明し、9月16日に関係部局長の会議で方向性を決めていただいた。私どもとしては市長部局の第三者委員会の立ち上げに対しては、申し上げる権限もないため、ただ事実を伝えただけということ。

論議された主な政策課題調書(令和4年3月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	小泉一真議員	委員会	いじめ重大事態の再調査について	小西議員からは、教育委員会からの釈明を受けているとは聞いていません。この照会事項があつて9月22日に担当を市長部局に切り替えたというのが時系列を見れば事実、この対応が当該被害児童及び保護者の不信感を強めている、この件を踏まえて何らかの反省を得ていただきたい。	時間がかかっていることは事実である。今後の市長部局の再調査結果の踏まえ、対応ができるようにしたい。
学校教育課	小泉一真議員	委員会	いじめ重大事態の再調査について	今後いじめ問題があつたときに、被疑児童、加害児童双方に中立的な態度を取りつつも、きちんと信頼関係を結べるような対応をしていただきたい。	(要望)
学校教育課	小林秀子議員	委員会	校則について	多様性が尊重される現在、各校の校則(特に髪の色等)について、しっかりと見直しをしてほしい。また、中学校の制服について、女子でもスラックスを選択できるよう徹底してほしいと考えるが、見解を伺う。	先日開催された生徒会サミットにおいて、校則についても話し合いが行われたところである。生徒の思いを大切にしていきたいと考えている。
学校教育課	金沢敦志議員	委員会	放課後子ども総合プランに係る情報共有について	放課後子ども総合プランについては、新たな組織((仮称)こども財団)に業務委託されるとのこと。新たな委託先と人的な交流を行う中で情報共有を図ってほしい。	(要望)
保健給食課	小林秀子議員	委員会	学校トイレにおける生理用品の配布について	小学生から、「隠すように持っていくので、トイレにあるとよい」との声もある。トイレットペーパーと同じように、備品としておいて欲しい。	養護教諭部会でも取り上げており、保健室にくる児童の様子から家庭の状況を把握したケースもあったと聞いている。引き続き、養護教諭部会とも相談しながら検討する。
家庭・地域学びの課	東方みゆき議員	委員会	交流センターについて	篠ノ井交流センターについて、利用者から複合化による使い辛さがあるということが言われている。看板や名前の付け方が分かれているので利用者の視点に立つと非常に難しい状態となっている。この点についてはどれくらい耳に入っているのか、検討の可能性について伺いたい。	高齢者の施設と生涯学習の施設と二つの施設があつて、利用者には戸惑いがあるかもしれない。複合化により、高齢者の施設が使えないときに交流センターに空きがあればそちらをお使いいただくなどのメリットがある。指定管理者である住民自治協議会と話をするとともに、利用者にも確認をしながら、どのような利用形態で困っているのかということ把握して、考えていく。
文化財課	東方みゆき議員	委員会	埋蔵文化財センター費について	市施行事業埋蔵文化財発掘調査の予算が、かなり増えている。その要因は何か。発掘調査の展示は、地元住民にも好評である。今後も開催してほしい。	増額した要因として一番大きいのが、川中島幹線道路整備事業(篠ノ井旧遺跡)の発掘調査である。その他、新規事業として、市道若穂西140号線道路改良事業(和田塚本遺跡群)の発掘調査などがある。